

玉串をささげる松田宮司（熊野神社で）



熊野神社が本殿を建立へ

地鎮祭で工事の安全祈願

来年6月末の完成予定

熊野神社（松田千代屋建て。延べ床面積約子宮司）が建設を進め、260平方メートル、76平方メートルの本殿造営の地鎮祭の御札所を併設する。祭が21日、菩提寺山の同神社敷地内で行われた。神社関係者や参拝者ら約100人が出席し、工事の安全を願った。完成は来年6月末を予定している。

同神社は、先代の故・松田富治乃宮司が1972年に創建。仮社殿であったことから、先代の遺志を引き継ぎ、本殿の建設を進めていた。

本殿は銅板ぶきの平

総工費は境内の整備工事を含め約3億円。設計・施工は久谷建築（下関市）。地鎮祭では、祝詞奏上などに続き、総代や工事関係者がくわなどを入れ、松田宮司らが玉串をささげ工事の無事を祈願した。

松田宮司は「本殿は長年の念願であり、先代の悲願でもあった」と話した。（野田）